



富山大学学報

昭和 35. 2. 1 第 18 号

目 次

年頭に際して	梅原学長	1
関係法令通達等		1
学内規程	工学部規程別表一部改正	2
	薬学部規程の一部改正	2
	教育学部規程の改正	2
人事異動		5
総合情報	昭和35年度学生募集要項(大学)	6
	〃 (短大)	8
	県下高等学校長との第10回連絡協議会	8
	工学部長の改選	9
	付属学校長の選挙	9
	昭和35年度科学研究費等の公募	9
	科学教育研究室の閉室	9
	付属幼稚園の新営と中学の増築	9
	永年勤続職員の表彰	10
	児島助教授え海外から招へい	10
	高森助教授農学博士に	10
	小林助教授の講演	10
	学内会計、庶務事務監査	10
レクリエーション便り		11
部局情報		11
学 生 部	本学における日本育英会奨学生の 状況	11
	(上記以外の育英奨学金・給貸与者の 状況)	11
経済学部	経済学部学生就職状況	11
日 誌	各部局庶務日誌	12
職員の改姓と住所変更		14

年 頭 に 際 し て

梅 原 真 隆

みなさんとともに、黄金時代として待望される1960年の
お正月を迎えましたことは、まことに御同慶のいたりで
あります。ことしの宮中におけるお歌会の題に「光」という
一字をえらばれてあることも趣ふかいことであります。新

らしくひらけいく宇宙世紀の曙光を仰ぎながら、当大学は
新しい世代を啓拓するにふさわしい人格を育てあげる学園
として、知と愛との光によつて荘厳されることを願いた
すことであります。

当大学も創立されてからいつのまにやら10年の月日は経
過いたしました。このあいだ、みなさんの御尽力によつて
着々と拡充してまいりましたことを感謝いたして おり
ます。この過去の業績を基盤として、ことしこそは画期的に
展開されなくてはならないと希うことであります。これに
ついては、各方面の全面的な支援も寄せられてあります。
この際、みなさん方はいよいよ力を協せて、快い展開を達
成するようにお尽し下さることをおねがいしてやまない次
第であります。

関 係 法 令

政 令

- 政令307 国の債権の管理等に関する法律施行令の一部
を改正する政令 9.26 官報
- 316 国家公務員共済組合法施行令の一部を改正す
る政令 10. 1 〃
- 317 政府職員の特殊勤務手当に関する政令の一部
を改正する政令 10. 5 〃
- 329 国税徴収法施行令 〃 〃
- 383 国税徴収法の施行に伴う関係政令の整理等
に関する政令 12. 6 〃
- 389 国有財産特別措置法施行令の一部を改正する
政令 12.28 〃

省 令

- 大蔵省68 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正
する省令 10. 1 官報
- 〃 70 債権管理事務取扱規則等の一部を改正する
省令 10. 8 〃
- 〃 71 債権管理法及び徴収簿等の様式の特例に関す
る省令 10. 8 〃
- 文部省25 学校保健法施行規則の一部を改正する省令
11.28 〃
- 〃 1 学校基本調査規則の一部を改正する省令
1 20 〃
- 〃 2 学校衛生統計調査規則の一部を改正する省令
1.20 〃

規 則

- 人事院 2— 6 人事統計報告の一部を改正する規則
9.21 官報
- 〃 9—22 暫定手当の一部を改正する規則
9.21 〃
- 〃 9—27 俸給の支給定日の特例 10. 3 〃
- 〃 9— 5 給与簿の一部を改正する規則 11. 9 〃

- 人事院 9-28 俸給の支給定日の特例 11.20 官報
 “ 1-4 現行の法律命令及び規則の廃止の一部を
 改正する規則 11.20 “
 “ 9-28 俸給の支給定日の特例の一部を改正する
 規則 12.5 “
 “ 9-17 俸給の特別調整額の一部を改正する規則
 12.10 “
 “ 2-5 人事記録の一部を改正する規則
 12.11 “

公 告

- 文部省共済組合定款の一部改正について 10.17 官報
 12.25 “

訓 令

- 文部 1 学校基本調査実施要領の一部を改正する訓令
 1.20 官報
 “ 2 学校衛生統計調査実施要領の一部を改正する訓
 令 1.20 “

告 示

- 大蔵225 支出負担行為の実施計画につき大蔵大臣の承
 認を経なければならない経費を定める告示の一
 部を改正する件 12.1 官報
 “ 241 大蔵大臣が特に指示する場合のほか支出官事
 務規程第21条に規定する外国貨幣換算率を定め
 る件 12.25 “
 “ 242 出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨幣
 換算率を定める件 12.25 “

官庁報告

- 文部 昭和35年度国立大学々生募集要項（富山大学）
 1.4 官報

法律施行通知

- 大蔵省 債権管理事務取扱規則等の一部を改正する省令
 の実施について 10.12 官報

通 達（主として会計関係）一括

- 物品の購入等会計経理の適正な執行について
 （9.17文会総832号）
- 文部省所管旅費規則第5条第2号別表二の職務の指
 定の一部改正について （9.7文会総807号）
- 文部省所属出納官吏等の任命等に関する規程の制定
 について （12.1文会総963号）
- 登録名義人の表示等の取扱いについて
 （12.22国会208号）
- 支出官事務規程第21条および出納官吏事務規程第16
 条に基く外国貨幣換算率について （1.8国会220号）
- 文部省所管物品管理事務取扱規程の一部を改正する
 訓令について （1.7文会総1059）
- 文部省債権管理事務取扱規程の一部を改正する訓令
 について （1.7文会総1058）

学 内 規 程

工学部規程別表一部改正

（10月30日評議会）

別 表

金属工学科中

製錬学実験 2	冶金実験 2
鉄冶金学特論 2	鉄冶金学第三 2
金属工学設計法 1	を 金属工学設計法 2
鉄鋼材料学 5	{ 鉄鋼材料学第一 3 “ 第二 2
金相学 4	金属組織学 4

に改め、専攻科目、物理化学の次に「応用鉱物学
 2単位」を加える。

機械工学科中

「金相学」2単位を「金属組織学」2単位に改める。
 付則に次の付則を加える。

付 則

この規程は昭和34年10月30日から実施し、昭和34年10
 月1日から適用する。

薬学部規程の一部改正

（11月20日評議会）

1. 別表(2) 薬学専攻科学科課程を次のように改める。

イ 薬物学特論	3単位を削除
ロ 微生物化学	2単位の次に
薬理学	3単位
薬品作用学	2単位を加える。
ハ 内分泌化学	2単位の次に
放射化学、放射線保健学特論（実験を含む）	3単位を加える。

2. 付則に次の付則を加える。

付 則

この規程（改正）は昭和34年11月20日から実施し昭
 和34年4月1日から適用する。

教育学部規程の改正

（35年1月22日評議会）

教育学部規程の一部を次のように改正する。

- 第3条を次のように改める。

（一般教育課程）

第3条 4年課程の一般教育課程では、人文科学（倫理
 学又は哲学のうち1科目2単位必修）社会科学（日本国
 憲法2単位必修）及び自然科学の3系列にわたり、それ
 ぞれ3科目12単位以上計36単位以上を修めなければなら
 ない。

2. 2年課程の一般教育課程では、人文科学（倫理学

又は哲学のうち1科目2単位必修)社会科学(日本国憲法2単位必修)及び自然科学の3系列にわたり、それぞれ3科目6単位以上計18単位以上を修めなければならない。

○別表を次のように改める。

専門科目，教職の教育心理学の次に，道德教育の研究を加える。

学 科 目 科 目 別			第一初等教育科		第一中等教育科		第二初等教育科	第二中等教育科	
			教育学専攻 心理学専攻	教科専攻	甲教科専攻	乙教科専攻		甲教科専攻	乙教科専攻
専 門 科 目	教	教材研究	16	16			14 音楽、図画工作、体育各2単位を必修とし残り5教科のうち4教科について8単位とする。		
		教科教育法			(1教科) 3			(1教科) 3	
		教育原理	4	4	4		2	2	
		教育心理学	4	4	4		2	2	
	職	道德教育の研究	2	2	2		1	1	
		教育実習	4	4	3		4	2	
		選 択	16	6	2		4	2	
	計		46	36	18		27	12	
	自由選択		22	22	16	24	4	6	10

○別表(家庭)，別表(職業)，別表(教育学専攻)，別表(心理学専攻)，別表，教職科目(教科専攻)をそれぞれ次のように改める。

◇(家庭)育児，家庭看護の次に下記を挿入する。

学 科 目	内 容	開設 単位	第一中等教育科		
			必	選必	選
家庭機械 及び家庭 工作	設計・製図	2	—	2	—
	家庭機械及び 庭工作	2	—	2	—
	家庭機械及び家 作実習	2	—	2	—
	木 工	2	—	1	1
	金 工	1	—	—	1

◇「(職業)」を「(職業)ロ」とし(家庭)と(職業)ロの間に下記を新たに加える。

(職業)イ・

学 科 目	内 容	開設 単位	第一中等教育科			
			共通 必修	第一類 選必	第二類 選必	選
設計・製図	図学及び製図	2	2			
	機械製図	2	1	1	1	
	造形設計全演習	2	1	1	1	
木工・金工	木材加工法	4		4	4	
	木工実習	2	2			

木工・金工	金属加工法	4	2		2	2
	金工実習	2	2			
工 業	工業概論	4	2		2	2
	工業演習	3			3	3
	材料化学・全実習	2	2			
	材料化学各論	4			4	4
	材料化学実習	2			2	2
	機械工学概論	4	2		2	2
	機械工学実習	2	2			
	工業力学	2			2	2
	工業熱力学	2			2	2
	機構学	2			2	2
	動力機械及び 生産機械	2			2	2
	精密測定及び 精密機械	2			2	2
	機械設計法	2			2	2
	機械工作法	2			2	2
	機械工学実習	2			2	2
	電気工学概論	4	2		2	2
	電気工学実習	2	2			
	電気磁気学	4			4	4
	電子工学	2			2	2
	通信機器	2			2	2
	照明及び電熱	2			2	2
	電力機械学	2			2	2
	電気工実習	2			2	2

学 科 目	内 容	開設 単位	第一中等教育科				
			共通 必修	第一類 選必	第二類 選必	第三類 選必	第四類 選必
農 業	作物学・全実験	3	3				
	作物学汎論	2		2			2
	作物学各論	4		4			4
	作物学特論	2		2			2
	作物学演習	2		2			2
	園芸学	4	2	2			2
	育種学	2		2			2
	栽培実験及び実習	2		2			2
	畜産学・全実験	1	1				
	畜産学汎論	2		2			2
	畜産学各論	4		4			4
	畜産学特論	2		2			2
	畜産学実験及び実習	2		2			2
	土壌肥料学	2		2			2
	農産製造学	4		4			4
	食品化学	2		2			2
	農芸化学実験及び実習	2		2			2
	農業地理	2		2			2
	微生物学	2		2			2
	植物生理生態学	4		4			4
	農業実習	2	2				
水 産	水産学概論	4			4		4
	水産学実習	1			1		1
商 業	商業概論	4			4		4
	簿記概論	4			4		4
	経営学	4			4		4
産業概説	産業概説	4	2		2		2
職業指導	職業指導の原理	4	2		2		2
	職業指導の技術	4			4		4
関 連	一般統計学	2			2		2
	技術史	4			4		4
特設科目							
計		162	34	10		10	
				6		6	
				50		+	必修34 50

◇（教育学専攻）の初等教育原理の次に

内 容	開設単位	第一初等教育科	
		必	選 必
道德教育の研究	4	2	

を加え、計を

開設単位	必	選 必
計	102	30 16 46

とする。

◇（心理学専攻）の教育原理の次に

内 容	開設単位	第一初等教育科	
		必	選 必
道德教育の研究	4	2	

を加え、計を

開設単位	必	選 必
計	88	30 16 46

とする。

◇教職科目（教科専攻）の教育心理の次に

内 容	開設 単位	第一中等教育科		第二中等教育科		第一初等教育科		第二初等教育科	
		必	選必	必	選必	必	選必	必	選必
道德教育の研究	4	2		1		2		1	

を加え、計を

	開設 単位	第一中等教育科		第二中等教育科		第一初等教育科		第二初等教育科	
		必	選必	必	選必	必	選必	必	選必
計	84	16	2	10	2	30	6	23	4
		18		12		36		27	

とする。

○ 付 則

この規程は昭和35年1月22日から実施し、昭和34年7月25日から適用する。

但し、昭和32年度以前の入学生は、改正前の規程による。

昭和33年度入学生は、改正後の第3条の規程にかかわらず改正前の第3条の規程による。



人 事 異 動

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
	風 巻 恒 司	文部教官（富山大学講師工学部）に採用する	34. 11. 1
	土 肥 研 二	技 能 員（文理学部ガラス工）に採用する	〃
	片 山 操	文部教官（富山大学助教授文理学部）に採用する	12. 1
	吉 岡 周 明	〃（富山大学講師教育学部）に採用する	35. 1. 1
	伊 藤 三 枝 子	事 務 員（工学部）に採用する	1. 16
	御 器 谷 竹 夫	用務員（工学部作業員）に採用する	34. 12. 16
	中 山 道 子	事務補佐員（工学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	12. 1
講 師（経済学部）	山 崎 佳 夫	助教授に昇任させる	11. 16
助 手（経済学部）	海 道 勝 稔	講師に昇任させる	〃
講 師（教育学部）	田 中 久 雄	助教授に昇任させる	12. 16
講 師（経済学部）	中 村 一 彦	〃	35. 2. 1
講 師（文理学部）	中 臣 恵 暁	〃	〃
〃	佐 藤 自 郎	〃	〃
技能員（経済学部電話交換手）	山 本 侑 子	技能員（経済学部電話交換手）に配置換する （定員内）	34. 7. 16
技能員（工学部炊婦）	田 中 千 代	技能員（工学部炊婦）に配置換する（定員内）	〃
助教授（工学部）	葉 山 益 次 郎	横浜国立大学助教授工学部に配置換する	12. 1
教 授（薬学部）	志 甫 伝 逸	富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年5月31日までとする	〃
教 授（工学部）	南 日 実	工学部長に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	12. 15
〃	上 野 亨	富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年5月31日までとする	〃
教 授（教育学部）	和 田 徳 一	教育学部附属中学校長に併任する 任期は昭和36年12月15日までとする	12. 16
〃	玉 生 正 信	教育学部附属小学校長に併任する 任期は昭和36年12月15日までとする 教育学部附属幼稚園長に併任する 任期は昭和36年12月15日までとする	〃
事務員（薬学部）	高 森 恵 己 子	辞職を承認する	10. 31
技術員（教育学部看護婦）	牛 島 ア ヤ	〃	12. 24
文部技官（工学部）	田 嶋 仁	〃	12. 31
技能員（工学部工務員）	能 登 紀 彦	〃	〃
用務員（文理学部作業員）	加 藤 藤 次 郎	〃	35. 1. 3
技能員（工学部タイピスト）	藤 田 静 香	〃	〃
教 授（文理学部）	竹 内 豊 三 郎	外国出張の期間を延長する 延長期間は昭和34年11月25日から昭和35年6月 30日までとする	1. 30
教 授（薬学部）	中 沖 太 七 郎	薬学部長事務代理を免ずる 富山大学評議員の併任を解除する	34. 12. 1
〃	三 橋 監 物	薬学部長事務代理を命ずる	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
	奈 賀 隆 雄	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	34. 10. 13
	大 野 俊 一	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	11. 3
	村 井 藤 十 郎	講師（経済学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	12. 15
	小 寺 廉 吉	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	35. 1. 6
	田 辺 普	講師（薬学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	1. 21
	森 川 宗 一	講師（工学部）に採用する 任期は昭和35年3月10日までとする	2. 1
金沢大学助教授 理学部	江 田 義 計	講師（文理学部）の併任を解除する	34. 9. 30
東京大学助教授 原子核研究所	西 川 哲 治	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 11
広島大学教授 理学部	福 井 憲 二	〃	10. 20
九州大学教授 工学部	伊 藤 尚	講師（工学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
金沢大学教授 理学部	酒 井 栄 一	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 12
大阪大学教授 理学部	広 田 鋼 蔵	〃	10. 25
東京大学教授 理学部	霜 田 光 一	〃	〃
助教授（教育学部）	頭 川 徹 治	〃	11. 1
信州大学教授 工学部	石 田 光 夫	講師（工学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
新潟大学教授 理学部	田 代 芳 郎	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	11. 8
東京教育大学教授 文学部	吉 田 精 一	〃	〃
東北大学教授 金属材料研究所	今 井 勇 之 進	講師（工学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	12. 1
東京工業大学教授	岡 本 哲 史	〃	〃
東京大学教授 教養学部	木 内 信 蔵	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
東京大学助教授 教養学部	原 佑	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	12. 6
〃	野 島 正 城	〃	12. 9
東京工業大学教授	森 永 卓 一	講師（工学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	12. 16
教 授（教育学部）	沢 泉 重 夫	講師（富山大学経営短期大学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 23
教 授（文理学部）	大 島 文 雄	補導協議会委員を免ずる	9. 15
助教授（文理学部）	岡 崎 初 雄	補導協議会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	〃
教 授（文理学部）	柴 田 萬 年	建築委員会委員を命ずる 任期は昭和36年9月30日までとする	10. 1
教 授（教育学部）	山 本 健 彦	〃	〃
教 授（経済学部）	武 石 勉	〃	〃
教 授（薬学部）	志 甫 伝 逸	〃	〃
教 授（工学部）	長 元 亀 久 男	〃	〃

~~~~~  
綜 合 情 報  
~~~~~

昭和35年度学生募集要項（大学）

昭和35年度の本学学生募集要項の概要は次のとおりであ

る。

1. 募集人員

文理学部 文学科……………40名

{ 専攻種別 哲学、史学、国文学及び中国文学、
学、英文学、ドイツ文学 }

入学志願票には専攻を指定しないこと。

理 学 科……………60名

(専攻種別 数学, 物理学, 化学, 生物学)

入学志願票には専攻を指定しないこと。

教育学部 第一中等教育科(4年制)……………約75名

専攻別 (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 図画工作, 保健体育, 家庭職業, 英語) 各若干名

第一初等教育科(4年制)……………約90名

入学志願票には必ず専攻を指定すること

経済学部 経済学科……………160名

薬 学 部 薬 学 科……………80名

工 学 部 電気工学科……………40名

工業化学科……………40名

金属工学科……………40名

機械工学科……………50名

2. 出願期限

昭和35年 2月11日(木曜日)から
2月20日(土曜日)まで

3. 検査日割及び時間表

3月22日(火) 午前8時30分～同9時 点 呼
午前9時 ～同11時 数 学
午前11時30分～午後1時 国 語
午後2時 ～同3時30分 社 会
3月23日(水) 午前9時 ～同10時30分 外国語
午前11時 ～午後0時30分 理 科
午後1時～音楽, 図画工作(実技検査のみ), 保健体育の筆
答試問および実技検査
健康診断(本校において
指定された者のみ)

4. 検査場所

学力検査, 健康診断とも各自が入学を出願する学部
の検査場において受検すること。

文理学部検査場(富山市蓮町)文理学部

教育学部検査場(富山市五福)教育学部

経済学部検査場(富山市五福)富山商業高等学校

薬 学 部 検査場(富山市窪町)奥田中学校……

(学力検査)

(富山市奥田)薬学部…(健康診断)

工 学 部 検査場(高岡市古定塚)工 学 部

5. 合格者は3月31日(木)各学部に掲示し, 且つ, 本人へ通知する。(電話その他による問合せには一切
応じない)

6. 学力検査

次の5教科について, 高等学校卒業の学力程度を標準として出題する。

(改訂教育課程)

(旧教育課程)

国語科 国語(甲)とする
(国語(甲)で学習する
程度の漢文を含む)

左に同じ。

社会科 社会, 日本史, 世界史
人文地理のうちから1
科目を選択させる。

一般社会, 日本史
世界史, 人文地理
時事問題のうちから
1科目を選択させる。

数学科 数学Ⅰのほかに, 数学Ⅱ
または数学Ⅲのうち,
いずれか1科目を選択
させる。(計2科目)
ただし, 数学Ⅰから
は統計および空間図
形を除き, 数学Ⅲから
は順列と組合せおよ
び確率と統計を除く。

解析(Ⅰ), 解析
(Ⅱ), 幾何のう
ちから2科目を選
択させる。

理 科 物理, 化学, 生物, 地
学のうちから1科目を
選択させる。
ただし, 工学部志願
者は, 物理, 化学の
うちいずれか1科目
を選択すること。

左に同じ。

外国語科 英語, ドイツ語のうち
いずれか1カ国語を選
択させる。

左に同じ。

(1) 旧教育課程による卒業者は, 旧教育課程・改訂
教育課程のうち, いずれを選択してもよい。(数
学2科目の選択は, 改訂・旧両課程にまたがるこ
とはできない)

改訂教育課程による卒業者は, 旧教育課程を選ぶ
ことはできない。

(2) 教育学部第一中等教育科の音楽, 図画工作, 保
健体育専攻を第一志望とする志願者に限り, 社会
科又は理科のいずれかの1科目の代りに専攻に応
じ, 次の実技の検査および理論の試問を選ぶこと
ができる。これを選んだ志願者の第二志望は認め
ない。

(専攻別)	(実技)	(理論)
音 楽	器楽, 声楽	筆答試問
図画工作	素描, デザイン	試問しない
保健体育	体 育	筆答試問

(3) 教育学部第一中等教育科の職業専攻および経済
学部志願者に限り, 商業簿記を社会科の1科目と
して選択することができる。

備考 薬学部志願者は, 理科については化学を選
択することが望ましい。

7. 健康診断

3月23日(水)午後1時より診断を必要と認めた者
について実施する。該当者の受験番号及び検査の詳
細は, 3月23日の学力検査終了後各検査場に掲示す
る。

昭和35年度学生募集要項（経営短大）

1. 募集人員

経営科第二部…………… 80名

2. 出願期限

昭和35年2月21日(日曜日)から3月3日(木曜日)まで

3. 学力検査

次の4教科について、高等学校卒業の学力程度を標準として検査する。

国語科 国語(甲)(漢文を除く)

数学科 改訂教育課程の科目数学(I)(統計および空間図形を除く)

旧教育課程の科目 解析(I)のうちいずれか1科目を選択する。

外国語科 英語

社会科 改訂教育課程の科目社会。

旧教育課程の科目一般社会。

改訂旧教育課程共通科目商業簿記。

以上のうちいずれか1科目を選択する

4. 健康診断

4月3日(日) 午後3時30分より診断を必要と認めた者について実施する。該当者の受験番号及び検査の詳細は学力検査終了後検査場に掲示する。

5. 検査日及び時間表

4月3日(日) 午前9時 ～ 同10時 数 学
午前10時30分 ～ 同11時 30分 外国語
午後零時30分 ～ 同1時30分 国 語
午後2時 ～ 同3時 社 会
午後3時30分 健康診断(本学に於て指定された者のみ)

6. 合格者は4月9日(土)本学に掲示し、且つ、本人へ通知する。

県下高等学校長との第10回連絡協議会

この連絡協議会は、ことしは県教育委員会が主催することとなり、旧臘11日午後1時から富山荘で開かれた。大学側からは学長、各学部長、学生部長、事務局長、渡辺義一教授のほか関係課長等出席した。まづ川瀬教育長と梅原学長の挨拶があつて、大学から35年度の学生募集要項(短大を含む)ほか、34年度の入学許可の状況や育英奨学生の状況などについて報告説明があり、次いで眼目である36年度の入学者選抜方法、特に学力検査の実施教科についての議事に移った。これには大島学生部長から大学の方針案を示し、討議に入つたが、高校側からはそれぞれの学校の、それぞれの立場からいろいろと注文、要望が述べられ、質疑応答が重ねられた。なかには試験場の五福集中の要望な

ども出た。

この協議の結果を参酌、36年度の学力検査の実施教科は次のように決められ、同月下旬関係機関始め県内各高校に案内された。

昭和36年度入学者選抜方法のうち学力検査実施教科について

次の5教科について、高等学校卒業の学力程度を標準として出題する。

教 科	科 目
国 語 科	国語(甲)とする。
社 会 科	社会・日本史・世界史・人文地理のうち、1科目を選択させる。
数 学 科	文科系志願者 範囲は、数学Ⅱまでとする。 理科系志願者 範囲は、数学Ⅲまでとする。
理 科	物理・化学・生物・地学のうち、1科目を選択させる。 ただし、薬学部志願者は、物理・化学・生物のうちいずれかの1科目を選択しなければならない。 工学部志願者は、物理・化学のうちいずれか1科目を選択しなければならない。
外国語科	英語・ドイツ語のうち、1か国語を選択させる。

1. 文科系志願者とは、文理学部文学科、教育学部および経済学部志願者をいう。

理科系志願者とは、文理学部理学科、薬学部および工学部の志願者をいう。

ただし、教育学部第一中等教育科の数学および理科の専攻志願者は、理科系志願者とする。

2. 数学Ⅰからは、統計、対数表による計算および計算尺の原理、いろいろな曲線、正射影および投影図、三角形の解法およびへろんの公式を除き、数学Ⅲからは、順列、組合せ、確率、統計を除く。

3. 経済学部志願者のうち、高等学校の商業に関する課程を卒業した者に限り、教科数学科の検査科目として、数学Ⅰ(数学Ⅰから除く部分は、前項に同じ)と商業簿記を選択することができる。

4. 教育学部第一中等教育科の音楽・図画工作・保健体育専攻を第一志望とする志願者に限り、社会科又は理科のいずれかの1科目の代りに専攻に応じ次の実技の検査および理論の試問を選ぶことができる。

ただし、これを選んだ志願者の第二志望は認めない。

専 攻 別	実 技	理 論
音 楽	器 楽・声 楽	筆答試問
図 画 工 作	素 描・デザイン	試問しない
保 健 体 育	体 育	筆答試問

5. 薬学部志願者は、理科については薬学の学科目履修上有利であるから、化学を選択することが望ましい。

工学部長の改選

工学部長横山辰雄教授の任期は昨年12月14日で満了となるので、これに先だち11月11日同学部で後任候補者の選挙が行われた。その結果 南日実教授が有効票数31票中16票を得て後任候補者と決定し、12月15日付をもって発令された。同時に解任となつた横山教授は昭和28年石原寅次郎氏学部長から2代目学長昇任のあとを受けて学部長となつたものであるが、爾来任期を重ねること3回6年間にわたつたもので、長期在任者の一人であつた。また後任の南日実部長は富山市長江の出身で、明治26年の生れである。大正8年九州帝大工学部の卒、後東北帝大付属工専、仙台高工教授などを歴任して大正18年台北帝大教授となつたが、終戦とともに帰国、昭和22年県立富山中学校長となり、同校の昇格につれ富山高校長となつて、27年富山大学に入り講師となり、2年後教授となつて今日に至つたものである。

付属学校長の選挙

教育学部付属学校の校(園)長の任期はともに昨年12月14日をもって終了するので、これが選挙を11月11日同学部教授会において行なつた。その結果次のとおり玉生、和田の両教授ともに再選され12月15日付で就任した。

付属小学校長	教授	玉 生 正 信
“ 幼稚園長	“	“
付属中学校長	教授	和 田 徳 一

昭和35年度科学研究費等の公募

昭和35年度の科学研究費等の公募については昨年11月その要項を発表されたが、従来各学部について応募者の受付をしていたところ1月末までに次のとおりの応募結果となつた。

区 分	文	教	経	薬	工	計
① 科学研究費交付金						
イ. 総合研究			1			1
ロ. 機関研究				1	1	2
ハ. 各個研究	9	2	7	15	23	56
② 科学試験研究費補助金	1			2	1	4
③ 輸入機械購入費補助金					1	1
	10	2	8	18	26	64

これ等のうちから採択の決めるのは予算通過後の6月頃となるであろう。

科学教育研究室の閉室

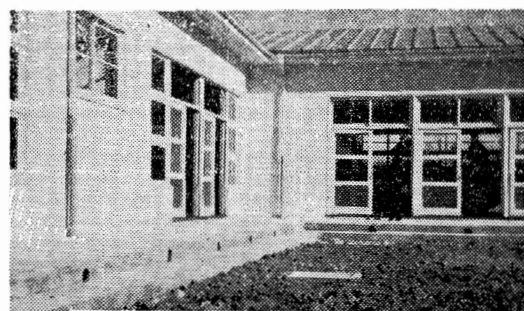
昭和34年度富山大学科学教育研究室は5月15日から閉室されたことは前号に掲げておいたが、予定のとおり12月15日をもって終了、室を閉じることとなつた。そこで翌16日午後2時から黒田講堂貴賓室で川瀬県教育長らを迎えて閉室式を行つた。まづ11人の研究生に対し梅原学長から修了証が授与され、次いで学長から式辞が述べられ、川瀬教育長から祝辞が述べられた。また指導教官を代表して文理学部柴田教授から賛辞、激励の言葉があつたに対し、研究生代表高岡牧野小学校三箇教諭の答辞があつて式を終えた。

このあと座談会に移り、研究者、指導者から閉室中の感想を述べ合つて散会した。なお11人の研究生のうち7人は実験関係であつて、他は非実験関係である。

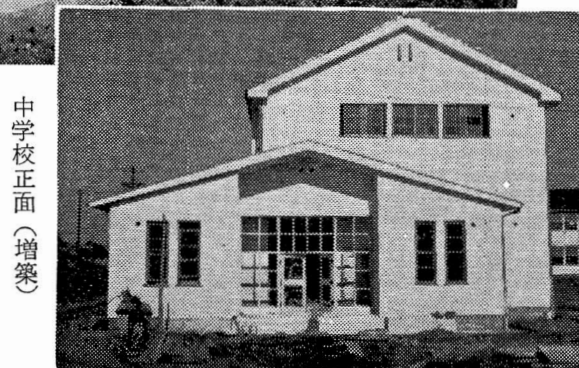
付属幼稚園の新営と中学の増築

教育学部の付属学校を五福地区に集中するという計画は学部などの五福地区への集中とからんで大学創立当初からの懸案であつて、うち小、中学校は既に移転を了し、幼稚園のみ敷地買収が難行のまま独り五福敷地の東北隅の旧兵営の将校集会所を校舎として残つていた。ところが昨年敷地買収も決定するとともに、折からかねて計画された中学校の増築工事と併せてその新営工事に着手していたが、12月10日両者ともに竣工した。そこで12月18日移転を了するとともに落成式を来賓関係者多数を招いて行つた。

幼稚園の校舎は木造平家建で347.49平方米(105.115坪)である。このうち保育室や、遊戯室は新しい構想のもので、特に二つある保育室の中間に巾1間、長さ4間の小室があつて、ここから保育母がそれとなく園児の動静を監守監察する仕組みとなつている。



幼稚園テラス



中学校正面(増築)

また、これと工を共にした中学の増築部分は、建281.07平方米、延459.27平方米（延138.923坪）の一部平家を含む2階建である。そして、平屋と階下は全部管理部門に当てられ、2階は特殊教室となっている。これで従来管理部門専用の部屋がなく、授業のその時々事情に応じて転々した事務室などは授業の部分と劃別されて、やはり今までなかった正式玄関とともにその所を得た訳である。工事は両工事併せて、965万円余りであつて、このうち65万円はPTAなどの寄付金によるものである。

永年勤続職員の表彰

ことしも恒例により永年勤続職員の表彰式が勤労感謝の日の翌日である11月24日本部会議室で行われた。これは大学および後援会の共催となっており、大学側からは学長、文理学部長、付属図書館長、学生部長、他各課長、後援会側からは、山森利一副会長、中井県教育委員など8名が出席した。式は11時開式の挨拶のあと、学長から永年勤続者に夫々感謝状と記念の銀盃を贈呈した。次いで学長の式辞があり、続いて山森後援会副会長の祝辞が述べられた。これに対し永年勤続者を代表して、溝上教育学部長から謝辞を述べて式を閉じ、このあと一同黒田講堂玄関前で記念撮影をなし、講堂貴賓室のささやかな祝宴に臨んだ。

ことしの表彰を受けた方々の氏名、所属、年数は次のとおりである。

部 局	官職	氏 名	勤続年数	内 訳	
				本 学	他の教育機関
本 部	事務官	小竹 雀雄	20.11	13.3	7.8
	〃	大畑 憲司	20.7	20.7	
文理学部	教 授	林 良二	25.6	10.2	15.4
	助教授	平田 一郎	20	16.5	3.7
教育学部	教 授	溝上 茂夫	37.7	10.7	27.
	助教授	池田 トミ	33.7	10.11	22.8
〃	〃	大滝 直平	26.7	10.5	16.2
	〃	高野 兼吉	20.7	13.5	10.2
教 諭	野村 武一	20.7	15.	5.7	
	〃	永森清太郎	27.7	10.1	17.6
〃	〃	中山宇之一	20.7	10.2	10.5
薬学部	事務官	藤波佐九郎	20.	20.	
工学部	教 授	長元亀久男	20.	13.11	6.1

児島助教授(文)の海外からの招へい

文理学部物理学教室の児島毅助教授は、このたびアメリカのオクラホマ大学から客員待遇の研究員として招へいを受け、一年間同大学に在留することとなった。同助教授はかねてからマイクロウエーブによる分子構造の究明を研究のテーマとして専念これに取組み、毎年本省から科学研究費交付金を受けていたのであるが、これが今回アメリカのオクラホマ大学のリンデ教授等の認むるところとなり、研

究を共にするため正式の招へいを受けたのである。出発は未定であるが、多分4月上旬となるであろう。

高森助教授(教)農学博士に

教育学部職業科第2教室の高森乙松助教授は、昨年春学位論文を次のとおり提出していたが、昨秋10月審査をパスして12月11日付学位が授与された。これで本学としては最初の農学博士が出現した訳である。

提出論文題目

“本邦における家畜の甲状腺腫に関する研究”

論文提出先及び審査員

東京大学農学部 教授 農学博士 山本脩太郎

高森助教授は畜産学や飼料科学の専門家で、かねて家畜の病理、飼育など研究を続けているうち、10年ほど前、長野県下で生後間もないめん羊が頻りと死ぬことをききこみ、踏査研究のメスを入れたところ、甲状腺腫によるものであることを発見した。これは従来家畜の甲状腺腫は世界の風土病的分布において日本が唯一の例外的地帯とされていた学説を覆すものとして、その成果をかわれたのである。そもそも先天性甲状腺腫は、甲状腺が肥大して呼吸困難となるものであるが、そのほか家畜一般の甲状腺腫の病理組織学的、ならびに実験的に、甲状腺腫のできる機構およびその病因として、飼料である豆がらにも甲状腺の肥大する物質があることなどが究明されたのである。

小林助教授の講演

文理学部の小林助教授は一昨年カナダのモントリオール市で開催の国際遺伝学会議に出席、帰途アメリカの各地を回って帰朝されたが、その際お土産話の講演をお願いしておいたがのびのびとなつて1月8日午後2時から図書館の視聴覚教室で催すこととなった。この講演は事務職員の教養を目的としたものであるが、時刻と距離の関係からその対象を五福地区勤務者のみに限つたものである。参集するものは各部局から約50名であつた。

学内会計、庶務事務監査

仕事繁忙のちよつとした谷間のある10月、11月に会計と庶務の両課はそれぞれ部局の事務監査を次のとおり実施した。

会 計

10月20～21日	本 部
〃 23日	文理学部
〃 24日	経済学部
〃 27日	薬 学 部
〃 28～30日	工 学 部 (物品検査)
11月 9日	図 書 館
〃 16日	教育学部

庶務

11月10日	文理学部
〃 〃	薬学部
〃 11日	経済学部
〃 12日	工学部
〃 16日	図書館
〃 〃	教育学部
〃 17日	本部

レクリエーション

富山地区公務員R連盟

囲碁と将棋大会

国家公務員レクリエーション富山地区運営委員会においては、1月19日(火)9時から囲碁と将棋の大会を石金の淨誓寺というお寺で開催した。参集した選手は総勢92名の多きに達し、本堂も庫裡も身動きも不自由という盛況であつた。この二、三日前全国的寒波の襲来で雪と寒さを惧れたが、前日頃から気温もゆるみ、雪も融けまづまづの日和であつた。寺といつてもなかなか奇麗であり、また手狭間ということも却つて暖かさをプラスするという結果となり、よいコンディションであつたというべきであろう。

(囲碁)

出場22チーム、人員68名を6ブロックに分けて、各ブロックでリーグ戦が行われ、本学はこれに4チーム(12人)が加わつたが、優勝トーナメント戦に出場出来たのは白野斉藤(教)安田のA組のみであつた。然かも、リーグ戦の際白野君と基準局代表との対局に級の誤認があつたというので打ち直し的一幕もあつたが、結局白野君の勝ち、これでAチームのトーナメント戦出場となり、同時に白野君はリーグ戦における3戦全勝者として個人戦にも出場することとなつたが、両方とも建設省と相対して敗れ去つた。そして優勝は団体個人戦ともこの建設省が昨年同様獲得するところとなつた。

(将棋)

出場者は24名で、本学からは柿岡、若林、大坪の諸氏が加わつた。優勝者は裁判所の加藤氏であつた。大学の3者の戦績は次のとおり。

柿岡	2戦 1勝 1敗
大坪	2戦 1勝 1敗
若林	1戦 1敗

なお囲碁の個人トーナメント戦は例により長引き、当日は第1戦で打ち切り、第2戦の準々決勝以下は、25日(月)にもち越し建設省の事務所で行われた。

部局情報

(学生部)

日本育英会奨学生の状況 (35.2.1現)

学部別	区分	在籍学生数	奨学生数	比率%	摘要
文理学部		389	113	31	
教育学部		506	241	48	
経済学部		576	209	37	
薬学部		320	112	35	
工学部		576	192	34	
計		2,367	867	37%	

日本育英会以外の育英奨学金・給貸与者の状況 (34.12)

学部	給・貸与生数	摘要
文理学部	10	
教育学部	3	
経済学部	14	
薬学部	11	
工学部	22	
計	60	

(経済学部)

経済学部学生就職状況

今年は特に業界の活況を反映して事業所、会社からの求人申込が殺到し、しかも採用試験が10月に集中したため、就職の内定を見た者は11月末に早くも就職希望者の98%を突破するに至つた。即ち来春3月に予定される当学部卒業生140名のうち、就職希望者は125名で、このうち既に122名の内定を見るという盛況である。採用試験は例年どおり一部の例外を除き10月1日に始まつたが、今年の求人社数は11月末現在で、昨年の160件を6割も上廻り256件に達し就職希望者1人当りに対し2.1倍の申込を受けた訳である。

しかし大多数の会社の採用試験日が10月上旬に集中したため学生としては折角の好機でありながら、希望二者、あるいは三者中の択一を餘儀なくされ、それが外れた場合の次善三善の機を逸するという場合も少なくなかつたのである。今これを表示すると次のとおりである。

採用試験日	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	計
大企業	65	20	5	1	1	0	92
中企業	21	28	18	8	7	3	85
小企業	11	14	23	13	14	4	79
計	97	62	46	22	22	7	256

6 大企業の求人申込92社について見るに、10月上旬に65社、特に1日から5日までの間には実に60社を数えた。

10月中旬以後は中小企業の比率が多くなっている。

就職内定者122名の就職内容は主として次の通りである。

(1) 就職先地域別

東京方面 29 阪神方面 28
中京方面 8 北陸地区 10
富山県内 47

(2) 就職先の規模別

大企業 98 中企業 18 小企業 6

(3) 就職先の業種別

建設業 5 製造業、印刷出版 7 化学工業 9
金属工業 9 機械、電機製造 8 卸小売業 16
金融、保険、証券 40 運輸、通信、公益事業 5
公務 2 その他 21 計 122

以上のとおり早期における試験日の競合は、採用する会社、事業場の立場からすれば、期日が早ければ早いほど優秀なものを獲得し得ることとなり、遅ければ遅いほど節にかけ残りを掴まされるという自然の理によるものであろうが、これは採用者間の申し合せなり、応需の大学との申し合せによつて何等かの調整をなさるべきものであろう。例えば特に優秀な企業体よりの求人申込は却つてあとに廻して10月末から11月にかけて期間を幅広く行うということも一つの方法と思われる。

さあれ本年は、「岩戸景気」により、ともかく求職の殆んど全員が就職先を決定し、たゞ卒業を待つばかりとなり悠々最後の学生生活の総仕上げに専念していることは、恵まれたりというべきであろう。

日 誌

文 理 学 部

34年10月 6日 一般教育委員会

〃 9日 教授会

〃 12日 後期授業開始

〃 14日 教授会

20日～26日 全国文理学部長会議 (山口大学)

〃 24日 岩瀬地区官公庁野球大会
(於文理学部、文理学部優勝)

〃 29日 補導委員会

11月 6日 教授会

〃 14日 一般教育自治会主催球技大会

〃 18日 教授会

〃 23日 県下高等学校英語弁論大会 (於文理学部
文理学部英文学教室、県教委共催)

〃 24日 文部省研究助成課 加藤、村田両事務官、
アイソトープ関係調査のため来部

11月25日 補導委員会

〃 30日 秋季レクリエーション (行先 大牧温泉)

12月 2日 教授会

〃 7日 島根大学文理学部事務長 雄副重敏氏、茨城大学文理学部助教授 鈴木隆男氏来部

〃 8日 茨城大学文理学部助教授 豊崎卓氏来部

〃 14日 学生健康保険組合理事会 (於文理学部)

〃 16日 教授会 職業補導委員会

〃 17日 教授会

〃 23日 〃

35年 1月12日 全国文理学部長会議 (於埼玉大学)

〃 20日 教授会

〃 26日 県教委と文理学部職業補導委員と懇談会

〃 27日 教授会

〃 30日 冬季レクリエーション大会 (於島之湯鉱泉)

教 育 学 部

34年10月18日 10時より学窓会総会 (黒田講堂)

26～29日 第8回全国へき地教育研究大会

(於熊本図書館)

27～30日 教員養成学部教官研究集会

(黒田講堂、経済学部教室、その他

国語、数学教育研究集会)

11月6～7日 文理学部と併設されている教育学部長会議
(高知大学教育学部)

7～8日 日本教育大学協会北陸地区第二部会保健体育科研究協議会 (信州大学教育学部)
理科教育研究発表会

(経済学部教室、その他)

9～11日 昭和34年度校長研究協議会

(お茶の水女子大学)

11日 付属学校(園)長候補者選挙

13～14日 初等教育「国語科」全国協議会(広島大学)

10～20日 第8回近世史料取扱講習会(文部省史料館)

30日 昭和34年度東京教育大学教育研修課程(教育相談課程)

12月1～3日 学校保健技術講習会(養護教諭)

(於国立科学博物館)

19日 富大演劇発表会 (電気ビル)

20日 付属幼稚園新築落成式並びに付属中学校管理室竣工式合同挙行

26日 委嘱専門講座閉講式 (山王公民館)

35年1月6～12日 体育スキー実習 (志賀高原)

13～18日 冬季大学体育研究集会(長野県菅平)

経 済 学 部

34年8月 10日 人事教授会

17日 職業補導小委員会

34年 8月25～27日 日本数学会

27日 人事教授会

9月 5日 人事教授会, 職業補導小委員会

7日 授業再開

10日 教務委員会, 学部補導委員会, 教授会

11日 職業補導小委員会

14日 専攻科教官会議

17日 前期末試験(26日まで)

21日 経済学部論集編集委員会

23日 職業補導小委員会

10月 1日 職業補導小委員会, 学部図書委員会

8日 人事教授会, 教務委員会, 教授会, 職業補導小委員会

9日 専門課程進学生オリエンテーション

10(土)11日(日) 平湯, 上高地レクリエーション

12日 昭和34年度後期授業開始

16日 全国銀行協会連合会, 社団法人東京銀行協会調査部長 北原道貫氏来部

19日 学部図書委員会

22日 教授会, 人事教授会

29日 学部図書委員会

30日 人事教授会, 学部運営委員会

11月 5日 教授会

7日 経済学部同窓会(越嶺会)総会

12日 北陸財務局経済調査室長 白江与志夫氏来部

19日 教務委員会, 教授会, 職業補導小委員会

12月 3日 教授会

17日 学部補導委員会, 教授会, 人事教授会

35年 1月11日 経済学部授業開始, 第二回学生ゼミナール大会, 教官選考委員会, 人事教授会

14日 教授会, 職業補導小委員会

薬 学 部

34年10月5～6日 全国薬系大学, 学長, 学部長, 科長会議(於箱根)

9日 教授会

15日 〃

19日 後期授業開始

23～24日 薬学部を置く新制6大学事務局長及び薬学部長会議(於長崎)

11月 3日 本学部学生と, 金沢大学薬学部学生との交歓競技会

5日 教授会

名古屋大学医学部長 山田和麻呂氏来学

11日 教授会

25日 〃

レントゲン間接撮影

12月11日 東邦大学薬学部長貴志一郎氏並びに東京理科大学長真島正市氏来学

19日 教官と学生との懇談会

21日 教授会

冬季休業に入る

工 学 部

34年8月3日～7日 ボイラー技師試験準備講習会

日本繊維機械学会北陸支部研究会

31日 人事教授会

9月 2日 教授会

14日 金属学会役員会

23日 教授会

10月 7日 人事教授会

13日 教授会

15日 2年次専門課程進学オリエンテーション

11月 4日 教授会

6日 工業化学科実験室新営工事地鎮祭

7日 北信工業教育協会富山県支部総会

9日 人事教授会, 午後血圧検査

11日 教授会 工学部長選挙

20日 文部省委嘱金属工学専門講座

25日 教授会

12月 7日 富山財務部吉田司計係長15号台風被害状況調査のため来部

35年 1月27日 人事教授会

図 書 館

34年9月4日～5日 第9回北信越地区大学図書館協議会(金沢大学図書館)

19日 新旧 中沖, 平岡両館長の事務引継

10月 2日 第2回図書館協議会

26～30日 第6次全国々立大学図書館長会議(一ツ橋大学図書館)

31日 図書館職員レクリエーション

31(土)11月1日(日) 石川県山代温泉 山代荘一泊

12月 1日 第3回図書館協議会

本 部

34年10月15日 北陸東海地区会計課長会議(三島)

30日 評議会

31日 文化部会

11月 3日 文部省会計課第2予算班西間木主査来学
西村名古屋工事々務所長来学

- 6～7日 東海北陸施設課長会議 (金沢)
 8日 第8回学部対抗学生運動会
 愛知学芸大学施設課長来学
 11日 文理学部を置く大学長会議 (文部省)
 13～14日 学長大学協会総会 (日本学術会議) に出席
 16日 事務局長会議 (文部省)
 24日 永年勤続者表彰式 (会議室)
 本省学術局研究助成課村田事務官外一名
 科学研究補助金の使用状況査察に来学
 27日 職員庭球大会 (総合レクリエーション)
 12月3～4日 東海北陸地区学生部課長会議

(金沢大学)

5日 前名大学長勝沼正蔵氏、同大学事務局長須
 川氏と来学

7日 認定講習委員会

8日 原子力同位元素委員会

11日 高校と大学の連絡協議会 (富山荘)

15日 科学教育研究室修了式 (文理学部)

18日 評議会

35年 1月 8日 小林助教授講演 (視聴覚教室)

21日 共済組合監査 23日まで

22日 評議会

26日 文理学部を置く大学長会議 (文部省)

短期大学部

34年 8月31日 授業開始

9月22日 教官会議

10月3～9日 前期末試験

12日 後期授業開始

11月19日 教官会議

12月 9日 ”

21日 ”

35年 1月11日 授業開始

改姓と住所変更

改 姓

(旧) 文理 早瀬智都子 (新) 城川智都子
 教育 野沢 行夫 奥村 行夫
 図書 西尾 和枝 梶原 和枝

住所変更

本部 島倉 重二
 文理 片山 竜成
 ” 坂口 雅一
 教育 奥村 行夫
 経済 山本 英治
 図書 梶原 和枝

工学 石田 文治

” 瀬川安一郎